国際化学肥料ニュース（2011 年 12 月）

肥料業界の 2011 年 12 月動態

＊ 12 月 16 日、中国政府は 2012 年の化学肥料輸出関税を公表した。主な内容は、尿素の需要期（1～6 月、11～12 月）関税 110%、非需要期（7～10 月）関税 7%（基準価格未満の場合、基準価格を超えた場合は逓増関税を適用）。硫安を除くその他の窒素肥料は需要期関税 82%、非需要期 7%。DAP、MAP は需要期（1～5 月、10～12 月）関税 110%、非需要期（6～9 月）関税 7%（基準価格未満の場合、基準価格を超えた場合は逓増関税を適用）。過りん酸石灰を除くその他のりん酸肥料は需要期関税 82%、非需要期関税 7%。NPK 化成肥料は 1～9 月の関税 110%、10～12 月関税 95%、NP 化成肥料は需要期関税 82%、非需要期関税 7%、PK 化成肥料は年間通して関税 7%である。なお、すべての 10kg 未満包装の化学肥料は需要期関税 82%、非需要期関税 7%である。この関税改正により、中国政府が化学肥料の輸出を一層コントロールしようとする決意を表明した。

＊ ヨーロッパ肥料工業協会（EFMA）は「EU 加盟 27 国の 2011～2021 年肥料需給関係レポート」を発表した。2021 年には、EU に加盟している 27ヶ国の化学肥料消費量は 1660 万トン（純成分計算、以下同）と予測した。その内訳は窒素肥料 1080 万トン、りん酸肥料 260 万トン、加里肥料 320 万トン、それぞれの増加率が 5.5%、19.8%と 30.2%である。バイオエネルギー需要、食糧需要の増加等が農業生産を刺激し、化学肥料の使用量を増やす要因になる。なお、2011 年 EU 加盟国の化学肥料消費量が 1480 万トン、その内訳は窒素肥料 1020 万トン、りん酸肥料 220 万トン、加里肥料 240 万トンである。化学肥料施用農地面積 1.344 億ヘクタール、約 60%の化学肥料は穀物生産に使用される。

1960～1980 年代は EU の化学肥料使用量の最盛期である。1990 年に約 3100 万トン（窒素肥料 1500 万トン、りん酸肥料 810 万トン、加里肥料 790 万トン）化学肥料が使用された。1990 年から環境保護の強化、有機農産物の人気等により、化学肥料の使用量が逐年減少し、2010 年に最低点になった。

＊ EU 金融危機の影響を受け、11 月末から尿素の国際取引価格が大幅に下落した。特にバルト海沿岸の尿素は 2010 年 8 月以来初めて FOB 価格が 300 ドル／トン割りまで落ち込み、ほかの地域も 100～150 ドル／トンの値下げとなった。一方、りん安（DAP, MAP）の価格も小幅に下落した。

＊ アメリカ肥料協会は 2011 年 11 月のアメリカりん安のデータを公表した。2011 年 11 月、アメリカの DAP 生産量 60.9 万トン、販売量 68.7 万トン（そのうち輸出量 50.6 万トン）、在庫 44.7 万トン。MAP 生産量 36.7 万トン、販売量 30.3 万トン（そのうち輸出量 11.2 万トン）。2011 年 1～11 月、アメリカ DAP 輸出量 335.9 万トン、MAP 輸出量 179.4 万トン。主な輸出先はインド、カナダ、ブラジル、アルゼンチン、コロンビア、日本であった。

＊ アメリカ肥料研究所の最新データによれば、2011 年 10 月の北米地域の塩化加里生産量 78.7 万トン、販売量 79.7 万トン、在庫量 165 万トン。

＊ 12 月 28 日、アメリカ Mosaic 社はりん酸肥料の需要不足による価格下落を阻止するため、2012 年 1～3 月のりん安生産を約 10%減産すると発表した。減産量は 25 万トンと予定する。なお、Mosaic 社の 2011 年第 3 四半期のりん安生産量が 220 万トン。

＊ ベトナムからの報道によれば、2012 年ベトナムの化学肥料需要量が 988 万トン、国内生産能力が 725 万トン、不足の 263 万トン（主にりん酸と加里肥料）は輸入に賄うと予測する。なお、2011 年国内尿素生産量が 150 万トンに達し、国内需要量の 60%を賄うことができた。2011 年 11 月と 2012 年に新たに 2 ヶ所の尿素工場が完成することになり、2012 年から国内尿素の需要に満たすうえに輸出する余裕がある。

＊ モロッコはりん酸肥料の発展に力を入れた。2020 年までの 10 年間に計 140 億ドルの資金を投入する予定。2011～2014 年に約 91 億ドルを投入し、4 ヶ所のりん鉱山と選鉱場の建設、りん酸肥料工場の新設、現有りん酸肥料工場の改築拡張、基礎施設の建設に充てる。モロッコ OCP はすでにフランス政府から 2.4 億ユーロを借り入れる契約を締結した。

大手各社の営業業績

＊ ロシア Uralkali は 2011 年第 3 四半期の純利益は 10.4 億ドル、1～9 月の純利益は 20.95 億ドルに達した。2011 年 1～9 月の塩化加里生産量は 600 万トン超、販売量は 610 万トンであった。主な販売先は中国（20%）と東南アジア（23%）、ロシア

国内（17%）であった。また、2011 年 7 月 EU 委員会がロシア産塩化加里に対する不正廉売関税を撤廃したことを受け、EU に計 80 万トン塩化加里を輸出した。アメリカにも約 100 万トン塩化加里を輸出した。

肥料プラント新規建設

＊ トルコ Bagfas 社は Bandirma に硝酸アンモニア石灰肥料工場を建設する。2015 年完成予定、生産能力 65 万トン／年。
トルコ Gubreta 社は Yarimica 肥料工場に新たに化成肥料生産ライン 2 本を増設する。生産能力は 25 万トン／年／ライン、2 年後に完成。完成後、Gubreta 社の化成肥料生産能力は 80 万トンに達する。なお、Gubreta 社は Yarimica に 18.5 万トン／年の重過りん酸石灰工場もある。

＊ カナダ Agrium は 15 億ドルを投資し、Saskatchewan 州 Vanscoy にある加里肥料工場の生産ラインを増設し、年間 100 万トン塩化加里の増産にする決定をした。この増設工事は 2014 年下期に完成する予定、完成後、Agrium の塩化加里生産能力は 300 万トン／年に達する。

＊ ベトナム「商工新聞」の報道によれば、Hai Phong 市のりん酸肥料工場が 2009 年 4 月完成後、順調に稼働して、今年の DAP 生産量が 23.6 万トンになり、品質も良く、ベトナム農家に歓迎される。来年から輸出にも視野に入れるとのこと。

＊ ドイツ K+S はカナダ Saskatchewan 州 Legacy 加里鉱山と精製工場の新設に 32.5 億カナダドルを投入することを決定した。Legacy には 1.6 億トンの水溶性加里塩類の埋蔵量があり、平均 K2O 含有量が 18%。K+S は 2011 年初にカナダの Potash One 社を買収し、その加里資源を手に入れた。2015 年に加里鉱山と精製工場を完成させ、塩化加里を生産する。2017 年に生産量が 200 万トン、2023 年に 286 万トン、2033 年に 400 万トン／年の生産量を計画する。

＊ 12 月 20 日、カタールの皇太子がカタール化学肥料社（QAFCO）の第 5 プロジェクトの竣工式にテープカットした。当該プロジェクトは QAFCO の 5 番目のアンモニアと尿素工場で、2008 年 4 月 29 日着工、建設期間 42 月、建設資金約 32 億ドル。生産能力はアンモニア 160 万トン／年、尿素 130 万トン／年。これにより、QAFCO はアンモニア生産能力 380 万トン／年、尿素生産能力 430 万トン／年に達し、世界最大級の窒素肥料会社となる。製品は全部輸出。

＊ イラクの North Fertilizer Plant はアメリカ KBR 社の技術協力を受け、当該工場の

アンモニア生産ラインを改造する。North Fertilizer Plant は 1989 年竣工、生産能力 1000 トン／日。改造により、生産能力が 1200 トン／日に引き上げる。

＊ 12 月 11 日、中国の中成公司がバングラデシュ化学工業（BCIC）とバングラデシュ Shahjalal 化学肥料工場との間に、バングラデシュの Chittagong 地域にアンモニア 33 万トン／年、尿素 58.8 万トン／年、建設費用 6.01 億ドルの肥料工場建設契約を締結した。これはバングラデシュにおける中国政府の借款で建設する最大プロジェクトである。

その他

＊ モロッコ OCP はトルコの Toros 社との間に肥料販売の合弁会社を設立する契約をした。当該合弁会社の名は「黒海肥料貿易」（BSFT）、トルコ、バルカン半島、中央アジア地域でモロッコ産りん安等の化学肥料を販売する。OCP は 70%の株式を持つ。

＊ エジプト OCI はアメリカ Pandora 社を買収した。Pandora 社はアンモニアとメタノールの工場を持ち、25 万トンアンモニアと 75 万トンメタノール／年の生産能力を有する。買収後、Pandora 社は OCI 北米社に改名する。OCI はエジプト国内だけではなく、アルジェリア、オランダ、アメリカにも肥料生産を拡大している。2012 年に年間生産能力はアンモニア 225 万トン、大粒尿素 275 万トン、硝酸アンモニア石灰 145 万トン、尿素硝安 52.5 万トンとなる。

＊ 環境未達成の原因で、オーストラリア Orica 社はニュー・サウスウェールズ州にあるアンモニア工場と硝安工場を閉鎖せざるを得ない。この 2 工場は蒸気漏れや排水の基準超過により、州政府の検査を受け，指摘された。いつ再開は未定。この 2 工場の閉鎖により、年間 36 万トンアンモニア、43 万トン硝安の生産量が無くなった。

＊ シンガポール国営投資会社 Temasek Holdings Pte はアメリカ Mosaic の株式を買い増し、持ち株率が 5.9%、最大の株主となった。

＊ BHP は傘下のカナダ Saskatchewan 州 Jansen 加里鉱山が生産する予定の塩化加里は Canpotex を経由しないで、独自に販売すると発表した。通常、北米地域で生産された塩化加里はすべて Canpotex を経由して販売するが、メーカーが独自に販売することが初めてである。昨年、BHP はカナダ最大手の Potash Corp 買収事件では、カナダ政府の反対により断念されたのは今回独自販売の起因の一つと推測される。Jansen 加里鉱山は 2015 年から生産開始、年間最大生産能力 800 万トン塩化加里と計画している。

＊ 12 月 21 日、EU 委員会は EU 加盟国の企業がアルジェリア、ロシア、ベラルーシ、ウクライナ原産の尿素・硝安溶液に対する反廉売関税の延長申請をしないため、2011 年 12 月 22 日から上記国原産の尿素・硝安溶液に対する反廉売関税を撤廃する決定を発表した。1999 年 6 月、EU は上記の尿素・硝安溶液に対して、不当廉売調査を開始し、2000 年 9 月に不当廉売認定、反廉売関税を徴収することになった。

＊ ロシア Sibur は所有する化学肥料事業をすべて手離しする。Sibur は 3 ヶ所の肥料工場を持ち、今回はその 2 ヶ所 Kemerovo と Angarsk 工場をシベリア商業連盟に売却する。売却金額 10 億ドル。Kemerovo 工場はアンモニア 90 万トン、硝安 90 万トン、尿素 51.5 万トン、硫安 30.5 万トン、カプロラクタム 11.6 万トン／年、Angarsk 工場は硝安 20 万トン／年の生産能力を有する。もう 1 ヶ所 Perm 工場は Uralchem に売却する予定。

＊ ノルウェーYara とモロッコ OCP は合弁の形でブラジル Rio Grande りん酸肥料工場を運営することに合意した。OCP は Yara から Rio Grande の 50%株式を取得して、りん鉱石を供給する役割を負う。Yara はりん酸肥料の生産と販売に専念する。